

平成28年度 伊那市立西春近北小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(職員)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
○ 明るい子ども ○ あたたかい子ども ○ かっこい子ども ○ たくましい子ども	・個性を大切にしながらも、集団の一員としての自覚を高め、誰とも明るく思いやりをもって接することができる子どもの姿を全教育活動の中でめざす。 ・学習面では、自ら課題をもち、友と支え合いながら粘り強く追究していきける子どもの姿をめざす。
	今年度の重点目標
	(1) 丈夫な体と心 ①「早寝・早起き・朝ごはん」 ②楽しく運動・元気に遊ぶ ③最後までがんばる
	(2) 感謝と思いやり ①大きな声で明るいあいさつ ②傘やくつをそろえる ③すみずみまでみがくそうじ
	(3) しっかり勉強 ①自分の考えを持ち 伝える ②くり返してしっかり身につける【ドリル】(学校) ③くり返してしっかり身につける【宿題】(家庭)

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○あいさつや清掃、行事などに委員会や学校全体として組織的に取り組み続けており、今年度も成果をあげている。清掃への取り組みや外で元気に遊ぶ多くの子どもたちの姿など本校の子どもたちの良さが発揮されている。そんな取組を継続し、明るく素直で元気な北小の子どもたちの良いところを今後もさらにのびしていきたい。 ○学習に関しては、参観に来ていただいた多くの方から子どもたちの取組の良さや先生方の指導における努力や工夫が評価されている。共同追究の場であれ、グループ・ペア学習のときであれ、自分の考えを持ち、伝えることが学んだことの理解や意欲的な追究に欠かせないという共通認識のもと職員は学習指導研究に取り組み、また、子どもたちもグループ・ペア学習で思ったことを気軽に口にしたり、教え合ったりしながら学力をつけている。挙手をして皆の前で意見を述べることだけが発言ではなく、つぶやいたりグループの中で考えを伝え合ったりすることも発言の一つであるという認識を、子どもたちにも保護者にもさらに広めていきたい。 ○教育活動がよりよく展開される基盤となる職員間や保護者・地域との連携の評価が高い。今後も、保護者・同窓会・地域の皆様との連携を大切にしながら信州型コミュニティースクールとしての活動を推進していきたい。		
①早寝・早起き・朝ご飯の生活習慣ができており、遅刻する児童もなく、規則正しい生活ができています。 ②年間を通して、朝、休み時間に校庭や体育館で遊ぶ子どもが多い。学年の枠を越えて遊ぶ姿も見られる。生活科室への鉄棒設置や体育科提案の「西春運動広場」(フィールドアスレチック)、縄跳び検定は子どもたちの運動に対する意欲付けになった。 ③学習や運動への取組、粘り強さについては、本校にもやや二極化の傾向はある。	A	①委員会による呼びかけが功を奏している。早寝は健康にとって大切なことだということ呼びかけ続けている。 ②委員会で学年間の仲が更に深まるような交流をさらに考える。「西春運動広場」は今後も継続したい。 ③声掛けや励ましたけだけでなく、がんばりカードを作るなど、努力の跡が目に見える形をさまざまな場面で取り入れ、自己評価できるようにしていく。また、一人ではできないことや続けにくいことも、仲間がいればできていくという気持ちを学級集団の中で育てていく。
①あいさつについては、総務代表委員会の児童が、毎朝大きな声で挨拶を呼びかけ、北小あいさつの日に低学年も参加している姿がとてよかった。挨拶がよくできる子とそうでない子、また、学校と地域で差の課題はまだ残るが、登下校中の地域でのあいさつについては良くできているという声も聞いた。 ②女関係のくつや傘がそろっている。検診等での保健室入室の際も、くつをしっかりと並べている。 ③清掃係の呼びかけにより、静かに熱心に掃除できる。清掃係が年間を見通した計画を立て、活動への意識を高めた。また、今年も6年生が下級生の良い見本となった。	A	①信州あいさつの日の取組を地域でも協力いただき、見守り隊の方に学校と同じ幟旗をもって声をかけていただいている。児童会のあいさつ週間も続けていく。また、教師から大きな声で率先して挨拶をしていくことも忘れない。 ②③児童会による挨拶の活動、清掃係による、清掃の方針等、学校体制で行っているものは、効果を上げているので引き続き行っていく。
①授業中、毎時考える時間を確保し、ペアやグループで伝え合う場を設定し、自分の考えを深めたり確かめたりすることができた。また、授業での発言は多くなっている。 ②集中したドリル学習への取り組みが基礎学力の定着につながっている。 ③全体的に、家庭学習も含め、勉強する習慣ができており、子どもが多い。家庭学習はほとんどの子がやってくる。しかし、時々忘れる子が高学年になるにつれ固定化してくる。	A	①つぶやきやうなずきが評価される学習環境をさらに作っていく。グループ活動・ペア学習の効果的な活用について研究を進めながら、今後も子どもたち一人ひとりが活躍できる学習をつくっていきたい。 ②朝のドリルの時間・毎日の5分間ドリル・月2回の朝ドリルを継続していく。 ③「家庭学習のすすめ」を年度当初の家庭配布のときだけでなく学級懇談会等ときどき扱い、家庭学習について話し合う機会を定期的に設けて、学校と家庭で連携して学習を見ていくようにしたい。

領域	対象	評価の観点
教育課程		・本校の教育課程に沿って、適切な履修がなされている
		・児童、職員、保護者、地域の願いや実態に寄せて、魅力や特色ある行事や教育活動が適切に位置付いている
		・計画的に設定され、諸会合も適切に位置付いている
		・適材適所に人員配置がなされている
教育活動		・基礎・基本の定着に力を入れている ・ねらい(つける力)を明確にし、授業の流れにめりはりをつけ、ねらいの達成の見とどけを行っている(授業の3観点の重視)
		・グループ・ペア学習を取り入れ、操作・体験的活動、教材教具の工夫をし、主体的な学びを図っている
		・児童が課題をみつけ、追究する学びの展開を図っている
		・学習準備、整理整頓、ノートへのまとめ、家庭学習等の学習習慣が定着している
生徒指導		・児童の実態や気持ちを理解し指導支援している
		・どの子にとっても居場所があり、いじめや不登校が起こらない学級づくりを行っている
		・児童理解を共有し、組織的な対応が図られている
		・おたよりや学級懇談で児童の様子を定期的に発信している ・保護者と連絡・相談を密に行っている
安全		・定期的に点検が実施され安全への配慮がなされている
		・危機管理意識を常に持って、児童への安全の配慮がなされている
学校運営	地域連携	・PTA活動が適切に位置付き、円滑に機能している
		・同窓会、子ども見守り隊、子どもを語る会、北保育園、春富中、伊那西高等の関係団体や地域講師との交流・連携が図られている
	研修・職員連携	・自己課題に寄せた日々の授業改善に取り組み、全校研、授業公開、職員研修等が推進されている
		・校内外の研究・研修会へ参加している ・協力し切磋琢磨しあい、個々の持ち味が活かされた教育実践が展開されている ・服務規程や綱紀について研修を積み意識が高まっている

成果と課題	評価	改善策・向上策
○児童の実態によって時数の多少は若干あるが、どの学年も教育課程に沿って履修すべき時数を超えて学習を進めることができています。英語学習の時間確保についての検討が必要。	A a	○新学習指導要領を見据え、年間指導計画に基づいて指導内容や授業時数の確保、児童の実態に沿った学習指導を計画的に行う。 ○行事や会議等の精選、運営の効率化、学習指導の向上、ドリル学習の時間の増設等によりさらに学力を補充していく。
○ウォークラリーや児童会まつりなど、縦割り班活動に対する保護者や地域の皆さんの評価が高い。また、地域の方がボランティアで入って下さり、茶道クラブができた。 ○意義や価値のある行事が多々あり、児童や教職員のゆとりのなさにつながる面もあった。地域との関わりの深い行事等は精選が難しい面もある。	A b	○どの行事も教育的な価値があり、また、積み重ねてきた経緯や地域との関わりもあるので、焦点化して精選を論じることがなかなかできない。活動の本質を見極め、子どもに学ばせたいことは何かを突き詰めることで行事の縮小等精選を探ってきたい。
○設定や位置づけはよいが、会合や会議の進め方や内容の取り扱いについてはさらに工夫の余地がある。	A b	○週日課に位置づく諸会合は弾力的な運用ができているが、子どもと向き合う時間の確保等今後も改善策を検討していく。
○おおむねよいが、校務の分掌に偏りが感じられる面もある。職員個人のさまざまな事情も加味しながら可能なかぎり適切な人員配置に今後も心がけていく。	A b	○実態に合わせ反省を行い検討し、校務分掌の分離・統合・新設・廃止を検討したい。配置は、様々な視点(適材適所・学年・内容の関連性・校務の質と量・個々の事情等)を考慮して学校運営委員会等にて話し合い、調整して進める。
○授業の3観点を重視して取り組んでいる。授業中、自分で考える時間の確保・ペアでの伝え合いの時間などを取り入れている。具体物操作や学習カードを工夫し、授業もパターン化し、子どもたちも抵抗なく取り組んでいる。 ○授業にめりはりがあり、子どもたちも生き生きと学習に取り組んでいる授業が多い。	A	○「ねらい・めりはり・見とどけ」を意識した授業改善に今後も努めていく。 ○基本の定着が不十分な子には、繰り返しその子どもに合った内容の課題を出し、学力を身につけさせたい。 ○低学年では子どもたちの実態に合わせて、話す・聞く・書くレベルを上げて取り組んでいく。また、1年生は入学後も巡回相談員の先生等に定期的に授業を見ていただくなど、配慮を要する児童の様子を継続してみていきたい。
○子ども同士が教え合う活動や、共に学び合う活動で、子どもが飽きずに活動に集中して取り組んでいる姿がよく見られる。	A b	○グループ・ペア学習はどの教科でも、できるだけ取り入れ、子どもたちの追究を大切にしていきたい。 ○特別支援学級の子供たちは特に、自信を持たせて「できる」という実感を味わわせることが大切だと考える。授業力を向上させるために教師自身の研修が大事である。
○授業方法・形態に工夫している姿が見られる。題材設定にも子どもの思いを取り入れた題材が見られる。	B b	○ペア・グループ活動を取り入れて自分の考えを伝えることはされているが、それが主体的な学びに繋がっているのか見極めていきたい。
○学習習慣の定着はほとんどの子はできている。 ○宿題をやってくることができない子が、固定化しつつある。	A a	○学習の準備、家庭学習の習慣においては家庭と連絡を密にし、学校での状態を知ってもらって保護者の協力を得るようにしたい。 ○本校での最低限の授業のきまりを今後も全学年で徹底していく。
○児童の様子の変化に素早く気づき、養護の先生にも協力していただき、不登校傾向の子どもや悩みを抱えた児童に対応することができた。	A b	○短時間でも子どもたちの様子について共通理解する時間を確保していく。それは職員会議などの場だけでなく、普段からの職員間のコミュニケーションの中でも十分にできる職場の雰囲気もこれらにも大切にしていく。
○専科、原学級担任の先生方のおかげで特別支援学級児童の原学級の中での居場所が確保されていて、安心して生活できている様子が見られる。気になることがあるとすぐに連絡し合える状態ができています。	A b	○どのクラスにも支援を必要としている子がいる。支援に入っていたければ本当にありがたい。今後も支援体制をしっかり組んでいきたい。 ○お楽しみ会や誕生日会など子どもたちが主体的に計画し、楽しめる時間を確保していく。
○職員会で配慮を要する児童やクラスの様子について伝達する時間がしっかりと設けられているため、全職員の理解へとつながっている。	A b	○職員会議での児童の情報交換の時間は大切な時間である。今後も確保していく。 ○担任だけでなく、子どもが悩みを打ち明けられるいくつかの窓口(校長室、保健室等)をこれからも設けていく。
○どの学級も毎日または、毎週お便りをつくって配布した。日々の活動や子どもたちの成長を連絡帳や電話をとおして定期的に伝えることで、保護者の方にも家庭での状況など伝えた。 ○子どもに何かあった場合や支援について悩んでいる際に、保護者とすぐに連絡を取り合っている。また、学校の様子を連絡帳やおたよりで伝え、連絡を密にできた。	A b	○今後も家庭との情報を密にしていこう心がける。学校の日頃からの情報開示や連絡が保護者の協力が繋がっていく。また、今後も市教育相談員、スクールカウンセラー、医療機関など外部の専門機関との関係を深め、連携していく。
○施設設備管理は月1回「安全の日」の定期的点検が確実にこなされ、校務技師の修理も敏速に行われている。 ○教頭、校務技師を中心に安全に関して校舎内外に目を配った。 ○食物アレルギー重症児童がいるが、給食の先生や担任の先生が常に心配し、事故のないように努めた。エビの研修会も行った。 ○「子ども見守り隊」の皆様は大変お世話になっている。児童が隊員の方へ感謝の手紙を出した。	A a	○校舎の老朽化に伴い、施設設備の点検はより確実さが求められる。定期点検は勿論毎日の点検を着実に実施し、早期発見、早期対応に努める。月一度の点検日だけでなく、日頃から多くの目で点検し気づいたことを出し合い、改修に取り組んでいく。
○保護者が意欲的に活動に参加して下さり、本当にありがたかった ○年々PTAの役員の方々の負担の声や役員定数の問題も多く聞かれるようになっていく。どのようにPTAとよりよく協力できるか課題になると思う。	B b	○これからの保護者や地域との連携を大切にしていきたい。P、T、Aすべての負担が軽減できるように、来年度は具体的にPTAとの話し合いを始めた。
○これまでの各団体の皆様のご協力に加え、今年度は茶道クラブや放課後学習の指導にも地域の方においでいただいた。 ○たくさんの方があり、会合も多く、職員の仕事がやや大きくなるように思う。	B b	○「明日の地域を担う子どもたちの健やかな育ち」を基盤にし、よりよい方向を目指す。また、講師の発掘は北小信州型C運営委員会や同窓会人材バンク委員会へもお願いし、活用を拡充を図っていく。 ○放課後学習における教材提供の仕方や夜の会合の職員の参加について改善策を検討していく。
○授業研究や教材研究に時間をかけている先生が多く、子どもが楽しく授業に取り組んでいる。一人一公開から学ぶことも多い。	A b	○授業公開の機会(実践の機会・参観の機会共に)は次年度も充実させたい。 ○周りから学び、今までの自分今までのやり方を変えられる柔軟さを持ち続けたい。
○校内職員研修で地域研修、AED研修等行うことができた。 ○外部研修への参加については、全校体制で補充するようにして研修への参加を行っている。	A b	○研修は児童に還元されるという認識から前向きに参加したい。今後も全校体制で(校長、教頭も含め)補充要員として支えていく。
○協力し合いながら子どもの様子を見たり伝え合ったりすることができている。 ○気軽にクラスのことや子どものことについて話ができる雰囲気がある。	A b	○今後も、支え合い切磋琢磨し合いながら、一人ひとりの職員の持ち味が発揮され、児童と共に充実した教育実践が成されていくよう協力体制・職員の和を大事にしていきたい。
○情報セキュリティ研修、非違行為防止研修等積極的にを行い、一人ひとり自覚を持ちながら働くことができている。	A b	○今後も、教育公務員としての自覚や自分と仲間を大切にすることを基盤にして綱紀粛正の保持に努め、非違行為防止を徹底する。 ○職員厚生や全職員のノー残業デーの確保に努めていく。